JAMMA ジャーナル

JAPAN AMUSEMENT MACHINE AND MAKETING ASSOCIATION 一般社団法人日本アミューズメントマシン協会
〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-8-11 飛栄九段ビル 8F
TEL：03（3556）5522 FAX：03（3556）5524
http://www.jamma.or.jp

2016年11月

電子版 No.38

JAEPO（ジャパンアミューズメントエキスポ）2017、2月10日・11日・12日、幕張メッセ 出展社・出展小間割が決定しました

JAMMAと（一社）全日本アミューズメント施設営業者協会連合会（AOU）の共催で、2017年2月10日（金）・11日（土）・12日（日）の3日間、千葉・幕張メッセで開催されるAM業界唯一の総合展示会「ジャパン アミューズメント エキスポ（JAEPO）2017」の出展社、出展小間が固まりました。

JAEPO2017は今回初めて「闘会議2017」との合同開催となるため、開催期間が3日間となっているほか、いくつか新たな試みが見られ、出展社数42社、出展小間数は541小間となりました。

10月28日に、東京都新宿区のアルカディア市ヶ谷で行われた出展社説明会には、協会関係者、出展社の代表が出席し、改めて出展概要の説明が行われたほか、各社の小間位置を決定しました。

出展社説明会で北嶋良則JAEPO実行委員長は、「来年のJAEPO2017は、初めて闘会議と合同開催ということになっています。少なくとも、例年の3倍以上の来場者が見込まれます。そうした中、今回は出展社数・小間数とも前年を大きく上回る結果となっており、ここ数年続いていた減少傾向に歯止めがかかりました。徐々にではありますが、ここ

最近の状況が好転しつつあることと、闘会議との合同開催での盛り上がりへの期待によるものだと思っています。

さらに闘会議に来場される方たちは、アミューズメント施設に普段来られていないという話を聞くことがありますので、最新の機械などを手に取って触っていただいて、先々の施設の活性化につながっていければ、と思っています。このショーの成功には、出展社皆様のご協力が不可欠と思っています。ご協力のほど、よろしくお願いします」と挨拶しました。

また今回のJAEPOでは、前回同様AOU主催の「第3回天下一音ゲ祭」を開催するほか、これまでとは違った、ゲームの楽しさを伝えるような、物販コーナーを設けるなど、新たな試みを行う予定です。

■名称：ジャパン アミューズメント エキスポ 2017
※告知物等における合同開催名称
JAEPO× 闘会議 2017
■会期：
【JAEPO】
2017 年 2 月 10 日（金）
10：00 ～ 18：00
（ビジネス来場者のみ）
2 月 11 日（土）
10：00 ～ 18：00
（ビジネス＋一般来場者）
2 月 12 日（日）
10：00 ～ 17：00
（一般来場者のみ）
【闘会議】
2017 年 2 月 11 日（土）
10：00 ～ 18：00
2 月 12 日（日）
10：00 ～ 17：00
※ 11 日（土）・12 日（日）は両イベント相互入場可
■会場：幕張メッセ国際展示場
展示ホール 1 ～ 8
（JAEPO ／ホール 2・3、闘会議／ホール 4 ～ 8）

■主催：
【JAEPO】
ジャパン アミューズメント エキスポ 協議会
一般社団法人　日本アミューズメントマシン協会（JAMMA）
一般社団法人　全日本アミューズメント施設営業者協会連合会（AOU）
【闘会議】
niconico
■入場料：
【JAEPO ビジネス入場券】
無料
※ 10 日、11 日のみ入場可
※追加購入分のビジネス入場券は 10 日のみ有効
【JAEPO、闘会議共通入場券】
※ 11 日、12 日のみ入場可

●前売り入場券	1 日券	1,500 円
	2 日通し券	2,500 円
●優先入場券	1 日券	1,600 円
	2 日通し券	2,700 円
●団体入場券	1 日券	1,500 円

（15～40名で事前申し込みされた団体対象）

●当日入場券	1 日券	2,000 円

※未就学児無料
■出展規模：出展社数 42 社、
出展小間数 541 小間

JAEPO JAPAN AMUSEMENT EXPO 2017 出展小間位置

JAEPO× 闘会議 2017　特別企画

JAEPO JAPAN AMUSEMENT EXPO

「JAEPO と一丸となって“ゲームファンのための夢の空間”を盛り上げたい」

長谷川　明弘　闘会議事務局長
インタビュー

アミューズメント業界最大規模の展示会「ジャパン アミューズメント エキスポ 2017（JAEPO2017）」が、来年２月 10 日～ 12 日の３日間、千葉市美浜区の幕張メッセで開催されるが、同展示会は、㈱ドワンゴ（荒木隆司社長、東京都中央区）の動画配信サイト「niconico」が主催するイベント「闘会議 2017」との合同開催とすることが決定している（正式名称：「JAEPO× 闘会議 2017」）。

「闘会議」は日本最大級のゲームイベントで、アナログゲーム、レトロゲーム、コンシューマーゲーム、アーケードゲーム、スマフォゲームなどが大集合する。ユーザー参加型のイベントで、ネットによるゲーム実況と様々なゲーム大会を特徴とするゲームの祭典である。

今回は、「闘会議」の長谷川明弘事務局長にインタビューし、今回の JAEPO との合同開催の意義やイベントの概要などを伺った。

JAEPO JAPAN AMUSEMENT EXPO

長谷川　明弘　闘会議事務局長インタビュー

——まず、闘会議はどんなイベントなのか教えて下さい。

長谷川　弊社は 12 年から「ニコニコ超会議」というイベントを同じく幕張メッセで開催しています。これはネットのコンテンツもしくは niconico の中にあるコンテンツを全て再現するという形で、ゲームやアニメ、歌、スポーツ、踊りなどあらゆるカルチャーが集合した参加型のイベントです。その中で一番人気があるのがゲームのエリアで、年を追うごとにさらに人気が高まってきましたので、そこを切り出して、「闘会議」の名称で 15 年から開催が始まりました。

——ゲームに特化したイベントですね。

長谷川　ニコニコ超会議の中で初期の頃人気だったのはボーカロイドなど特に音楽関係のジャンルだったのですが、ここ数年ゲームの人気が高まってきました。プレイしながら話していくゲーム実況というスタイルが確立されてからは、特に若い女性のゲームを見る機会がすごく増えまして、ニコニコ超会議の中でも最大の面積を誇るジャンルになりました。さらに参加者が増えてスペースが足りないくらいの状況になりましたので、スピンアウトして単体で開催することになったわけです。

全てのゲームジャンルを会場に再現する

——闘会議はどういうところに重きを置いたイベントなのですか。

長谷川　闘会議には大きく２つの特徴があると考えています。１つは、目玉がないと我々はよく言っていますが、逆に言うと、全てのゲームのジャンルをそこに再現するということで、コンシューマーゲームやアーケードゲームだけではなくて、スマホゲームだったり、逆にアナログゲームやレトロゲームのようなビデオゲーム以外のジャンルも数多く取り入れているのが特徴です。「全てのゲーマーのための夢の空間を作る」というのがコンセプトになっていますので、全てのゲームジャンルを再現したいと考えています。

——もう１つの特徴は？

長谷川　もう１つは、ニコニコ動画、ニコニコ生放送を運営している弊社ならではのイベントです。会場の様子を各ブース生中継することで、ネットの皆様と一緒になって楽しむことがもう１つの大きな特徴となっています。ゲーム実況もそうですが、ネットの視聴者も会場の人たちも一緒に参加して全ての方が楽しめるイベントになっています。

——これまで２回開催された闘会議の実績を改めてご紹介願います。

長谷川　15 年はリアルの来場者数が３万 5000 人。ネットでの視聴者数が 570 万人。16 年はリアルの来場者数が４万 7000 人、ネット視聴者数が 680 万人。ネットの視聴者数がリアルの来場者の 100 倍以上という

JAEPO JAPAN AMUSEMENT EXPO

長谷川　明弘　闘会議事務局長インタビュー

ことで、ネットの中でのゲームの人気、ゲーム実況やゲームの生放送の人気を如実に表している数字かなと思っていますし、イベント自体の特徴を表しているとも思います。

――規模も年々拡大していますね。

長谷川　最初は４ホールのうち３ホールが展示スペースでしたが、昨年は６ホール借りて５ホールが展示スペースでした。ほとんどのブースで同時にネット生放送をしています。

――協賛企業は年々増えていますか。

長谷川　前回は 19 数社に協賛をいただきました。ニコニコ超会議は出展エリアがあるので参加企業数は非常に多いですが、闘会議はそういう形はとらず、基本的には我々の企画を協賛していただいて一緒にやりましょうという趣旨でやっています。企業数というより企画に合った会社ということに重きを置いています。

――来場者の反応は？

長谷川　一般的な展示会は、全体をグルグル見て回り、見終わると帰るという感じですが、闘会議は来場者それぞれに固有の目的があって来ている方が多いのです。例えば、朝一番に来て、テーブルに座ってアナログゲームを１日中遊んでいる方がいらっしゃれば、ゲーム実況をステージの前でずっと見ている方もいらっしゃる。朝から来て晩までいるというような長期滞在の方が大変多いイベントで、１日を通してずっと楽しまれている印象があります。

――ブース間を移動する人は少ないのですか。

長谷川　来場者には様々なタイプの人がいて、色々な楽しみ方ができます。タイトル目当ての人、音ゲーが好きな人、出演者さんが好きな人、ジャンルだったり、大会が好きだったり。例えば音ゲーが好きな人でしたら、こちらのステージ、あちらのステージといった楽しみ方がありますし、楽しみ方はそれぞれです。また、「勲章」という制度を設けていまして、会場全体が遊び場だということで実施しています。

――「勲章」はスタンプラリーのようなものですか。

長谷川　入場するとまず１つ勲章がもらえます。そして色々なところでゲームをクリアすると、勲章がどんどん増えていきます。回遊目的だけでなく、会場全体がゲームのフィールドになっているのです。

合同開催で全てのゲームファンが楽しめるイベントに

――JAEPO との合同開催に至るまでの経緯を教えて下さい。

長谷川　15 年に、第１回の闘会議を開催するに当たって、JAEPO の方とお話する機会があったものですから、その頃から一緒にやりましょうという話が出てきて、「闘会議 2016」を開催する前には 16 年が終わったその次は一緒に開催しましょうということに

JAEPO JAPAN AMUSEMENT EXPO

長谷川　明弘　闘会議事務局長インタビュー

なりました。

――合同開催を持ちかけたのはどちらからですか。

長谷川　我々から提案しました。先ほど申しましたように、ニコニコ超会議や闘会議にいらっしゃる方は、ゲーム実況が好きな女性だったり、ライト層の方も非常に多くて、多様性に富んでいます。逆に、アーケードゲームはコアなファンの方が多く、我々としてはその客層の違いが、一緒に開催することで大きなメリットになると考えました。一方、JAEPO さんの方でも、展示会をネットで配信できることを大きく評価していただきました。日程も近いし、一緒に開催した方がお客様にとっても魅力的なイベントになるのではないかということで一致しました。

――ニコニコ動画の視聴者は女性やライト層が多いのですか。

長谷川　全体としては男性の方が多いですが、女性が増えてきています。今は男性66%女性 34%の割合です。特にリアルのイベントだと女性が増え、男女比が半々になるという状況です。さらに女性も来やすく楽しめるイベントを目指します。

――動画配信を核にしたイベントとアーケードゲームの親和性についてはどうお考えですか。

長谷川　我々の子供の頃、家庭用ゲーム機が家に来たような時代には、近所の皆が集まって一緒に遊んでいました。今は１人１人がゲームをプレイする時代ですが、アーケードゲームには誰かのスーパープレイを皆で見て応援したりとか、皆で楽しむ文化がまだまだあると思います。一方ネットでも、１人のプレイを皆で見て、コメントを書いて楽しんでいます。ゲームを通じて皆で遊ぶ、いっしょに楽

しめるところが共通していると思います。

９月から「闘会議グランプリ」の予選大会がスタート

――合同開催で会場の構成に変化はありますか。

長谷川　オープニングの演出があるエントランスの空間があり、その先に JAEPO の出展の空間、さらにその先に闘会議の空間があるという形の導線にしています。JAEPO 側と闘会議側で全く別のイベントがあるという形にはしたくないので、ユーザーさんが自由に行き来できるのは当然で、一体感のあるような作りにしたいと考えています。

JAEPO のよいところと闘会議のよいところを把握しながら、それぞれ役割を変えて、出展、協賛をしていただくお話を今進めています。基本的にはアーケードゲームの展示は JAEPO さんにお任せして、我々は実況など JAEPO さんが今までやってこられなかった部分を担当します。出展社ごとには個別の対応ですが、JAEPO 主催で開催するステージに関してはネットで配信する予定です。

――闘会議と JAEPO が協力するイベントなどはありますか。

長谷川　毎年 JAEPO で開催している「天下一音ゲ祭」は８月の募集開始の頃から、ニ

JAEPO JAPAN AMUSEMENT EXPO

長谷川　明弘　闘会議事務局長インタビュー

コニコ生放送の闘会議 TV の中で闘会議と JAEPO が一緒になって盛り上げていく企画を進めています。

――闘会議でも様々なゲームの予選大会が各地で始まりますね。

長谷川　９月の末から「闘会議グランプリ」というゲーム大会の予選を各地で始めています。この地方大会を皮切りに「闘会議 2017」で決勝大会を行います。

――闘会議グランプリで、すでに決まっているタイトルはありますか。

長谷川　すでに発表しているのは任天堂の「スプラトゥーン」で、すでに全国数カ所で予選を実施しています。

――最後に闘会議からアミューズメント業界へのメッセージをお願いします。

長谷川　我々闘会議は、ゲーム実況とゲーム大会の祭典という形で、「ゲームファンのための夢の空間」を作りたいと、２年間実践してきました。今まで我々が弱かったアミューズメントの部分、アーケードの部分に対して、よりコアなファンを含めて、業界の皆様と一緒にやれますので、その辺りは強い期待があります。闘会議と JAEPO が一丸となることで、我々が標榜している「ゲームファンのための夢の空間」をさらに盛り上げていきたいと思います。

――ありがとうございました。

遊園施設事業部　活動状況

平成 28 年度　会員懇談会・懇親会を開催しました
遊戯施設関係の告示改正の説明等を行いました

JAMMA 遊園施設事業部（中川実副会長・事業部長＝三精テクノロジーズ㈱）は 10 月 6 日午後３時から、三重県四日市市の四日市都ホテル「朝明・西の間」において、会員懇談会・懇親会を開催しました。出席者は事務局を含めて 13 名。

定刻になり、中川実事業部長の挨拶で同懇談会は始まりました。中川事業部長はまず、出席者に謝意を示した後、「本日は、これから３つのテーマについて色々と勉強して意見交換をして頂いた後、懇談会に移りますのでどうか有意義な会にして頂きたい」と挨拶しました。

懇談会は酒井三朗部長の司会進行により進められ、次の３つのテーマについて説明・報告がなされた後、質疑応答が行われました。

1．新告示第 1426 号遊戯施設の客席部分の構造を定める件の改正について

遊園施設事業部　活動状況

中川実事業部長が挨拶

標記のテーマについて、遊園施設事業部技術委員会、森田栄二委員長（三精テクノロジーズ㈱）より、あらかじめ用意された資料に基づき改正のポイントの説明が行われました。

2. 告示第 284 号遊戯施設の定期検査基準告示について

標記のテーマについても森田委員長から告示内容について説明が行われました。

3. 遊戯施設定期検査報告書の受付状況について

標記の件について、事務局の酒井部長から、同報告書受付台数一覧表が提示され、過去８年間の受付実績が報告されました（別掲参照）。

以上でテーマの説明・報告が終わり、最後にフリートーキングスタイルで活発な意見交換が行われ終了となりました。

【懇親会】

次いで会場を「朝明・東の間」で懇親会が行われました。

高島省吾理事（泉陽興業㈱）の乾杯の音頭で始まった懇親会は、終始和やかな雰囲気で歓談の輪が広がり途中、恒例の各社１品持ち寄りによるオークションも行われるなど大いに盛り上がった。最後に白神敬治理事（サノヤス・ライド㈱）により中締めが行われ散会となりました。

【懇親ゴルフコンペ】

翌７日は、第５回遊園施設事業部ゴルフコンペが、四日市カントリー倶楽部で行われました。参加者８名。結果は次の通りです。

【優勝】

室井貴志氏

(㈱アミューズメント・ジャーナル)

【準優勝】

森永健二氏（㈱岡本製作所）

【第３位】

佐原茂雄氏（朝日科学模型遊園㈱）

乾杯の音頭を取る高島省吾理事

中締めを行う白神敬治理事

懇親ゴルフコンペ参加者のみなさん

協会活動　第 22 回理事会

JAMMA 第 22 回理事会
日時：9 月 26 日、16：00 ～ 17：30、
場所：シェラトングランデオーシャンリゾート　マーズルーム（宮崎県宮崎市）
出席：理事 13 名
第 1 号議案　会員の入会承認について
　標記の件については、事務局から新入会員（正会員）について資料に基づき説明が行われ、承認された。
◎新入会員
正会員（ＡＭ事業部）
株式会社　アップワード
【所在地】
〒 173-0024
東京都板橋区大山金井町 16–7
アップワードビル
【代表者】
代表取締役　高橋　　馨
【設立】
昭和 59 年 1 月
【資本金】
1000 万円
【従業員】
36 名
【業種】
商業施設、展示会、イベント等のサイン制作、取り付け、アミューズメント機器の開発、製造、販売
第 2 号議案　国際部会の組織に関する件
　標記の件については事務局から資料に基づき説明され承認された。
1．経緯と目的
平成 26 年 5 月の組織改正により、3 事業部の共通課題を担当する横断的な部会組織として「国際部会」が新設されたが、その後約 2 年を経過したものの、やはり事業部ごとに海外における課題が異なり方向性が一致しないため、「国際部会」としての横断的な活動については機能していない状態が続いている。
　この状況を鑑み、事業部がそれぞれ抱える課題に対し機能的・効率的に対処するため、横断的組織としての「国際部会」は一旦これを分割し、各事業部に国際的な課題を解決するための部会を設置する形に戻すことを提案したい。
2.　国際部会の事業内容（平成 28 年度事業計画）
(1) アミューズメント文化の海外への情報提供等〈海外市場の拡大に向けた取組み〉
　海外のアミューズメント市場の拡大を目的とし、会員企業の海外での販売促進や事業進出におけるリスク軽減に向けた方策や市場動向に関する情報を収集し、会員に提供する。
(2) 海外市場視察および報告事業
　日本のＡＭ製品の海外における競争力強化や、良質な海外製品の日本市場への導入に資するため、海外の実状視察や海外展示会の視察事業を行い、結果を会員に報告して情報共有を行う。
(3) 海外の業界団体との交流
　世界各国の法規制や商習慣等に関する情報収集や市場調査を目的として、海外のアミューズメント業界団体と協力関係の再構築を図り、交流を促進する。
(4) 海外における知的財産権保護の活動
　会員企業の有する知的財産権を保護するため、中国、台湾、韓国等のアジアを中心として、模造行為に対する情報を収集するととも

協会活動　第 22 回理事会

に対応策を検討する。
(5) 遊園施設に関する海外関係団体との交流
　米国の IAAPA 、韓国の KAAPA（(社）韓国綜合遊園施設協会）等の海外関係団体と情報交換などの交流を行う。
(6)IAAPA アジア主催ミーティング開催に向けた支援活動
　本年９月、大阪開催を予定している IAAPA アジア主催のセミナー等のイベントについて、開催に向けた支援を行う。
3. 各事業部が今後とり組むべき主な課題
(1) AM 国際部会
田坂吉朗部会長／沖田勝典副部会長
①日本のＡＭ製品の海外における競争力強化のための取り組み
②海外における知的財産権保護の活動（模造行為の情報収集及び対応策の検討）
③海外団体との交流促進
④製造拠点の海外進出フォロー
(2) 海外 SC 戦略部会
片岡尚部会長
①海外施設、展示会の視察
②施設の海外進出支援
③海外 AM 機器の導入促進
(3) 遊園国際部会
小野忠司部会長
① IAAPA との連携強化等、海外団体との交流促進
②海外の遊園施設の安全基準についての情報収集
③海外遊園施設の導入促進及び安全確保
④遊園施設の海外市場開拓
⑤製造拠点の海外進出フォロー
第３号議案　遊戯施設安全管理講習会の開催に関する件
（詳細は別掲）
第４号議案　その他

報告事項
1. IAAPA セーフティ・インスティテュート開催報告
2. オンラインクレーンゲームについて
（詳細を別掲）
3. 会費の見直しについて
4. JAEPO2017（闘会議との合同開催）について
5. 中小企業等経営強化法について
6. JIS 改正について
7. GTI 報告
8. 事業執行状況の報告について
9. 年間スケジュールについて
　この中で、会費の見直しについては、平成 28 年度定時総会で、賛助会員制度の見直しと、これに伴う会費規定の一部改定が承認されたことを受け、現在全ての正会員及び賛助会員（遊園施設事業部所属会員を除く）を対象に、新会費規定に基づく売上高調査を実施していることが報告された。
　今後は、会員から提出された売上高に基づき、特別諮問委員会（委員長：萩原副会長）において、会員の種別、所属事業部及び年会費額を算定し、年内には各会員に通知する予定。

平成 28 年度遊戯施設安全管理講習会・開催ご案内

最近の遊戯施設は、利用者の要求とともに多種多様となり、運動形態も多様化・高度化が進み、それに伴い大型化する機種も増えてきております。

これらの遊戯施設に対する安全確保には、遊戯施設を維持・管理する人々の日常の努力や確実な操作による運転などに負う部分が大切であることはいうまでもありません。

当協会では、設立以来遊戯施設の安全をテーマに「遊戯施設安全管理講習会」を開催してまいりました。本年も標記講習会を次のとおり開催いたしますので、遊戯施設に携わる関係者及び遊戯施設の運行管理者・運転者など幅広くご参加下さいますようご案内いたします。

主催　一般社団法人日本アミューズメントマシン協会
後援（予定）　国土交通省、東京都
協賛（予定）　（一財）日本建築設備・昇降機センター、東日本遊園地協会、
西日本遊園地協会、日本ウォータースライド安全協会、
（一社）東京都昇降機安全協議会
受講対象者　遊戯施設の運行管理者、運転者及び技術者などのすべての関係者
開催期日　2016 年（平成 28 年）12 月 8 日（木）
開催場所　家の光会館 7 階コンベンションホール
〔東京都新宿区市谷船河原町 11 TEL：03-3260-4791〕
定員　120 名
講習科目及び時間
1. 開講挨拶　10：00 ～ 10：30
2. 遊戯施設の基礎知識　10：30 ～ 12：00
3. 遊戯施設の維持保全計画と運行管理　13：00 ～ 14：00
4. 遊戯施設の技術概論　14：00 ～ 17：00
（1）錆と塗装について
（2）ベアリングについて
講師（予定）
・（一社）日本アミューズメントマシン協会技術委員
・（一財）日本建築設備・昇降機センター認定評価部
・ジャパンカーボライン㈱
・日本精工㈱
受講料（テキスト代を含む）
ア.（一社）日本アミューズメントマシン協会会員…5,000 円
イ. 建築行政担当、東日本遊園地協会、西日本遊園地協会、日本ウォータースライド安全協会会員……8,000 円
ウ. 上記ア及びイ以外の方……12,000 円
送金方法及び期日
平成 28 年 11 月 25 日（金）までに銀行振込にてご送金願います。
〔銀行振込先〕みずほ銀行　市ヶ谷支店　普通 No.2178532　　社）日本アミューズメントマシン協会
申込方法・申込締切日
所定の申込書に必要事項を記入の上、ファクシミリ（03-3556-5524）又は郵送にて
平成 28 年 11 月 25 日（金）までに必着でお申込ください。
申込先・問合せ先
〒 102-0074　東京都千代田区九段南 3-8-11　飛栄九段ビル 8F
（一社）日本アミューズメントマシン協会　遊園施設事業部
TEL：03-3556-5522　FAX：03-3556-5524
講習終了証の発行
全課程を終了された方には、講習終了後、「講習修了証書」を発行いたします。